

I

■出題のねらい

短い会話において、基本文法と基本表現に関する間違いに気づく能力を問う問題でした。

■採点講評

□2は正答率が約90%でした。過去を表す“yesterday”が近くにあるため、わかりやすかったようです。次に正答率が高かったのが□6で68%でしたが、“Could you”の後には“doing”ではなく“do”がくることを問う問題でしたので、もっと高い正答率を予想していました。□5は3単現の“-s”の問題です。□1は、“want”の後に名詞がくる場合の“to”の有無についての問題でした。どちらも正答率が約40%と低く残念でした。“I want a book.”のような簡単な文章を思い出すことができれば正答できたでしょう。

II

■出題のねらい

学校図書館に関してよくある質問 [Q] とその回答 [A] について、(1) 問題の意味にあった英文にするために適切な語を補う、(2) 内容を正しく理解して適合しない文章を選ぶ、(3) 図書返却遅滞時の罰金とコピー代を計算する問題でした。質疑応答形式の短い文章の集まりで読みやすく、学校図書館での自分の経験を照らし合わせることができる比較的正答しやすい問題でした。

■採点講評

□7は“How long”, □8は“What happens”, □9は“make copies”とよく使われる表現を選択するのは、質問 [Q] の文章からも可能でした。それぞれの回答 [A] を正確に理解しているとよりわかりやすかったはずです。正答率は、順に91%, 45%, 52%でした。“What happens”, “make copies”のような日常表現は、簡単な英文のストーリーを数多く読むことで身に付けることができます。□10は正答率84%でした。□11も正確に計算できた人が56%でした。

III

■出題のねらい

表を参照しながら英文を読み、解答する問題です。テーマは碁、チェス、チェッカー、ブリッジ、シャンチー（中国将棋）に将棋と“mind sport”に関するものでした。（1）は関係詞を理解しているかを問う問題、（2）は表と英文の整合性を理解しているかを問う問題、（3）は“such～as”の表現を正しく組み合わせることができるかを問う問題、（4）は本文全体を理解できているかを問う問題でした。

■採点講評

まず、、は表を正しく読めている人が多かったため、ともに90%を超える正答率でした。しかし、の関係詞“which”を選ぶ問題の正答率は49%、の“such～as”の組み合わせを選ぶ問題の正答率は46%でした。の本文全体にかかわる問題は、25%の正答率でした。関係詞の理解が不十分な人が多いのは残念でした。大学レベルの英語では、関係詞の理解は不可欠です。難しいと避けずに克服しておいてください。同様に、文章全体にかかわる問題も、一つ一つ選択肢の文章と本文中の該当部分を比べるように努力してください。

IV

■出題のねらい

イギリス人とアメリカ人の2人が、食べ物にまつわる経験を話している内容について解答する問題です。(1)は適切な語を選ぶ問題、(2)は内容から“As an American, I can't help but think:”に続く適切な文章を選ぶ問題、(3)は本文と選択肢の文章との適合性を判断する能力をみる問題でした。

■採点講評

[17]が81%と高い正答率であったのに対して、[18]は20%、[19]は5%という低い正答率でした。どちらも高度な能力を必要としましたが、正答でない選択肢の文章には必ず明らかに本文の内容と異なる部分がありました。落ち着いて個々の選択肢の文章を理解する姿勢を身に付けましょう。もちろん、正しく理解する、または推測するためにはかなりの語彙力が必要です。また、ポイントになる語、“ploughman”, “plough”, “plow”などですが、知らない単語だったとしても諦めず、説明を読んで想像して自分なりのイメージをもつことが必要です。“Ploughman's lunch”は、“a traditional meal consisting of bread, cheese, cold ham and pickle, often served separately on a plate rather than as a sandwich”と文中に説明されています。サンドイッチとしてではなく、パン、チーズ、ハムとピクルスが別々にお皿に並べてあると言ってるのですから、[18]はサンドイッチに慣れたアメリカ人からすると、「どうしてサンドイッチにしてしまわないのか」と思うのが自然だと推測できます。